

皆様おはようございます。10月も最後の礼拝となりました。明日から11月になりますが、その11月の第4主日からアドベントが始まります。

1週、2週、3週、4週。そのアドベントの4週目、12月19日はクリスマス礼拝です。

災害や感染症の広がる、今年も大変な1年でしたけれども、その苦しみ溢れる世の中に救いをもたらすためにイエス様がお生まれくださったことを感謝して、待ち望み主のご降誕をお祝いしたいと思います。

使徒言行録も8章に入っておりますが、今日は魔術師シモンと言う人の話が出て参ります。彼は魔術を使ってサマリアの人々を驚かせていました。

先週の箇所でもピリポがサマリアの町に下って行き、キリスト宣べ伝えたと言う話がありましたけども、イエス様のことを語り、そしてその行うしるしを見聞きして、こぞってその話に聞き、そして汚れた霊に取り付かれた多くの人たちからその霊が追い出され、そして多くの病の人も癒してもらい、町の人々は大変喜んだとありました。

シモンは偉大な人物と自称する人でした。人々は長い間驚いて、注目して彼を見続けていました。小さな者から大きな者に至るまで、皆「この人こそ偉大な者といわれる神の力だ」と言って注目していました。

人々は長い間そのシモンに心を奪われ続けていました。この人こそ「偉大な者」と言われる神の力そのものだと言わしめていたのですからこの人の魔術は相当なものであったことがわかります。

この当時の魔術師と言いますのは、その中の多くのものは肉体的あるいは精神的に不幸を背負った人を相手にして利益を得ていたとのことです。彼はその魔術を使って長い間人々を驚かし、またおそらく利益を得て、そして偉大な人物と自称しました。お金と注目、権力を持っていました。

8:9 ところで、この町に以前からシモンという人がいて、魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、偉大な人物と自称していた。

8:10 それで、小さな者から大きな者に至るまで皆、「この人こそ偉大なものといわれる神の力だ」と言って注目していた。

8:11 人々が彼に注目したのは、長い間その魔術に心を奪われていたからである。

小さな者から大きな者に至るまでみんな。この人こそ偉大な者と言われる神の力だと言って注目してそのように人々の注目を浴びて、偉大な人物と自称して、これがこの人の生きる目的であり、それは成功しているように見えました。お金儲けをして、名声を得て、それが彼の目的でした。つまり自分の利益

のためにその魔術を用いて自分の利得のため自分の名譽のため評判のため進んでいく、それが彼の生き方でした。

8:12 しかし、フィリポが神の国とイエス・キリストの名について福音を告げ知らせるのを人々は信じ、男も女も洗礼を受けた。

ここに問題が起きました。ライバルが出現しました。

フィリポは神の僕であり、神の国とイエスキリストの名について、福音すなわち良き知らせを告げ知らせました。それは自分のためではありません。自分の評判利得のためではなく、神の国のために、人々の救いのためにイエスキリストの名を語り、その喜ばし福音を、つまり神がその人の子をお与えになって十字架につけ、身代わりとして人間の罪と呪いと死を解決するために一人子送ってくださったことを伝えました。それが福音の良き知らせです。それを告げ知らせるためにフィリポが来ました。

人々はそれを信じて男も女も洗礼を受けました。先にサマリアの家では既にフィリポは人々にこのキリストの事を話し、人々は彼の行うしるしを見聞きして、こぞってこの話に聞き入っていました。汚れた霊に取り付かれた多くの人たちはその霊が大声で叫びながら出て行き、多くの中風や足の不自由な人も癒してもらいました。神様がフィリポを遣わしてその悪霊の追い出しや病の癒しを行われたのは、イエスキリストを伝えるためです。

このイエス・キリストの御名こそが、あの美しい門に、生まれつき足が不自由であった人を立たせることになりました。その事が起こったということは、イエスキリストのもとに、人を生かす本当の力があるということを表すためです。この十字架の贖いこそが正真正銘の神様のお力に基づくものであって、人々をあらゆる患いから救い得る神の力であるということを神様がお知らせになるためであり、キリストの御名によって願うものを叶えてくださるわけです。その中であって神様と共にあるフィリポが、神の国とイエス・キリストの名によって福音を告げ知らせる所、不思議な業を行うという、そういう中であって人々が男も女も洗礼を受けたという出来事につながりました。

そういうイエス様の御名による救いがこのサマリアに広がり続けていました。これを見てシモン自身も信じて洗礼を受けました。シモンはいつもフィリポにつき従い、彼が素晴らしいしるしと奇跡を行うのを見て驚いていました。しかしこの後の彼の発言から、彼が本当に心からこの福音に感動してイエス様のことを知りたいと思っていたのではなくて、彼がこの勢いあるフィリポからどうやって自分に何かを取り入れることができるのか、利得を考え、そして相も変わらず自分がお株を奪われることなく、高い注目を浴びて今までと同じ生

活をしていくために何か自分が利得を得ることができないかという思いで付き従っていたということが分かるのです。

「素晴らしいしるしと奇跡を行われるのを見て驚いていた」とありますが、このことからほんとに心を低くして神様の御前に祈りと従順を捧げるのではなくて、目先に起こっている不思議なことを見て驚きながらも、その深い深いところでは、心は神様に向かっていなかったということが分かります。

それでも洗礼を受けてイエス・キリストの御名によって新しく生きようと願った者でもあったと言うことでしたが、私たちはこの意味を深く考えさせられる事でもあります。

水の洗い清めを持って罪から隔たり洗い清められる。そしてイエスキリストのキリストの名によって進むという事は、その十字架の贖い主の死にあずかるバプテスマをいただき、主の死と復活に預かるということだと思えますけども、そのところを深い理解に基づいているものなかったのかなと思います。

8:14 エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。

8:15 二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈った。

8:16 人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。

8:17 ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

「イエスの御名によって洗礼を受けたが聖霊を受けていなかった」ということは理解するのが難しいです。今日私たちはイエス様の皆によって洗礼を受けるときに聖霊が与えられると言うことを知っておりますけれども、その時はイエス様の御名によって洗礼を受けてもなお聖霊が降っていなかったという、そういう時であったということがわかります。それは洗礼を受けながら心はキリストと遠くかけ離れていたシモンの出来事と何か関係があるのでしょうか。

8:20 すると、ペトロは言った。「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。」

8:21 お前はこのことに何のかかわりもなければ、権利もない。お前の心が神の前に正しくないからだ。

21 節にありますけども「お前の心が神の前に正しくない」ということ、これが洗礼を受けた後の出来事であったということに思いが向きます。イエスキリ

ストの名によって洗礼を受けても、このようにお前が神の前に正しくないという状態のままであった、そういう人もいたんだなあと思います。

確かに私たちが全て理解してそして正しく完全無欠になっているから私たちが洗礼を受けるということではありません。洗礼は、神様の一方的な恵みのうちに、私たちは洗い清められ、ただ一方的にイエスキリストの贖いによって恵みを受け、それを信じる信仰によって義とされるという事ですから、全く正しくなければ洗礼を受けることができないということではないと思います。洗礼を受けたからすぐに劇的に私たちの心が全く清められるってことでも、残念ながらないということですが、そこで聖霊というものが本当に大切な存在であるということがわかります。

イエス・キリストを救い主として信じるもの神様はいつも守り導いてくださいます。それが聖霊が遣わされるということであると思います。聖霊は私たちに救いの証印を押してくださることであり、そしていつも私たちの心に悟りを与えるために働いておられます。心の中に働いて、罪を悟らせ、悔い改めさせ、罪に留まり続けることができないようにしてくださいます。これが聖霊の働きであると思います。

この出来事、洗礼を受けていたが聖霊を受けていなかったという事、そしてこのシモンという人の出来事は私たちに聖霊を頂くことの重要性を教えます。

シモンは未だ自分の心の欲望の赴くままにと考えていました。使徒たちが手を置くことによって聖霊が与えられるのを見て、シモンは金を持ってきてこう言いました。8:19 言った。「わたしが手を置けば、だれでも聖霊が受けられるように、わたしにもその力を授けてください。」

8:20 すると、ペトロは言った。「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。」

8:21 お前はこのことに何のかかわりもなければ、権利もない。お前の心が神の前に正しくないからだ。」

8:22 この悪事を悔い改め、主に祈れ。そのような心の思いでも、赦していただけるかもしれないからだ。」

8:23 お前は腹黒い者であり、悪の縄目に縛られていることが、わたしには分かっている。」

洗礼を受けてもなお変わることがない自分。自分が、自分がと、注目を浴び、神様の贖いの恵みにも目を向けず、「信仰を利得の手段と考える」生き方に進もうとするのが、私たちの頑迷なる心根です。

1 テモテ 6:2 これらのことを教え、勧めなさい。

6:3 異なる教えを説き、わたしたちの主イエス・キリストの健全な言葉にも、信心に基づく教えにも従わない者がいれば、

6:4 その者は高慢で、何も分からず、議論や口論に病みつきになっています。そこから、ねたみ、争い、中傷、邪推、

6:5 絶え間ない言い争いが生じるのです。これらは、精神が腐り、真理に背を向け、信心を利得の道と考える者の間で起こるものです。

6:6 もっとも、信心は、満ち足りることを知る者には、大きな利得の道です。

6:7 なぜならば、わたしたちは、何も持たずに世に生まれ、世を去るときは何も持って行くことができないからです。

6:8 食べる物と着る物があれば、わたしたちはそれで満足すべきです。

6:9 金持ちになろうとする者は、誘惑、罠、無分別で有害なさまざまの欲望に陥ります。その欲望が、人を滅亡と破滅に陥れます。

6:10 金銭の欲は、すべての悪の根です。金銭を追い求めるうちに信仰から迷い出て、さまざまのひどい苦しみに突き刺された者もいます。

6:11 しかし、神の人よ、あなたはこれらのことを避けなさい。正義、信心、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求めなさい。

6:12 信仰の戦いを立派に戦い抜き、永遠の命を手に入れなさい。命を得るために、あなたは神から召され、多くの証人の前で立派に信仰を表明したのです。

自分の利得をのみ考え、そして自分が立派なもの偉大なものに見られるようにということを考えて自分が自分が自分がと考えて、神様の思いがどこにあるのか、神の国がどのようにして存在し、その義がどこにあるのかを考えず進む心。

「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。お前はこのことに何のかかわりもなければ、権利もない。お前の心が神の前に正しくないからだ。」

こういわれてしまいかねない心が私たちの心にももたげてくることがあります。

8:23 お前は腹黒い者であり、悪の縄目に縛られていることが、わたしには分かっている。」

腹黒く、心には苦々しいものが満ち、他者を顧みずに自分の利得の事ばかり考える心。聖霊と関係なく進もうとする心が私たちのうちにもあります。ですから、私たちはキリストの心である聖霊に満たされる必要があります。そして、私たちのために命を捧げて下さったお方のことを考えて生活したいと思い

ます。私たちの心は、苦々しい胆汁、腹黒い古い罪の心、悪の縄目にかんじがらめに縛られ、捕らわれているのではなくて、主の死と復活とによって自由にされているのです。

神の国に仕えるしもべらはこう言いました。

「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」その信仰でした。目に見えるもの、この世の中のものがかいかに力強いもののように思えても、しかし神様の御力が何にも勝って力強いという信仰です。

私たちが物質的には十分でなかったとしても、神様が導いてくださる、道筋をつけて下さるといふ信仰によって進んでいく。ペテロもヨハネもそのことの連続でした。このようなお金が何とか解決する、名誉が欲しい、人々に振り向いてもらいたいとまず願う願いは、神の国と人の国をごちゃまぜにしたものであって、神様の賜物を本当には知らない人の願いです。ほんとにちっぽけなものになぞらえているだけで、この聖霊を与えられるということが、人を振り向かせるだけの魔術のような事であると感じているだけであって、この賜物は十字架について贖ってくださったイエスキリストが買い取った民がいつまでも神様のご意志に生きることができるよう神様が授けておられる賜物であって、お金で与えられるなものではなく、お金で、修行で、善行で人々の罪が救いを得ることができるのなら、イエスキリストの贖い主は無意味であった事になります。

本当にそういうイエス様にある高価な恵みと言うこと、人がどうやっても支払うことができない負債を神様はイエスキリストによって支払ってくださったと言うこと、お金ではどうしても解決することができないところにある出来事を主は成し遂げて下さったのだと言うことを心に留めたいと思います。

「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。」とは、非常に強い表現ですが、本当にお金で私たちの罪を贖うとしたら、それは誰によっても支払いきれない巨額の負債なのでした。そういう、どうすることもできなくなってしまったことを神様はイエス様によってしてくださったという事は私たちがよくよく知らなければならないことです。

お前は腹黒い、悪の縄目に縛られていて、深い深い古い罪の中にあり、胆汁にある、心の苦々しさによって、心の奥底が真っ黒になっている状態であり、そしてその罪の縄目に縛られてかんじがらめにされて動くことができない状態であり、そして罪が習慣になって逃れることができないそういう状況だったの

でした。心の内側から腹黒く、そして正しいことをしようと思ってもできず悪の縄目の中に縛られて、悪しき事をするより他出来なくなっているその哀れな弱い人間のために、イエス様が十字架にかかってくださったと言うことで一人ひとりの心の中の腹黒さがあつて胆汁のような苦々しさが解決されたのだと考えますと、感謝です。一人一人の腹黒さが解決され、罪の縄目が複雑に入り組んで、社会が冷たい、愛のないところとなってしまうました。そういう積み重なった世界は本当に複雑で難しいところとなってしまうました。

そのためにイエス様が死んでくださり、その御名で洗礼を受け、神様は聖霊が降るようにして下さいました。

洗礼を受けてもなおシモンはまだ、「お前の心が神の前に正しくないからだ。 8:22 この悪事を悔い改め、主に祈れ。そのような心の思いでも、赦していただけるかもしれないからだ。 8:23 お前は腹黒い者であり、悪の縄目に縛られていることが、わたしには分かっている。」と言われなければならない者でした。私たちもまた、洗礼を受けたからすべてに問題のない人間に生まれ変わるわけではありません。しかし、そこに聖霊が降る時、それは私たちにとっての救いの証印となって下さり、いつも心を吟味させ、立ち帰らせ、悔い改める力となって下さいます。この種のお恵みに感謝したいと思います。

そして聖霊は、私たちに、救い主イエス様を力強く証しさせて下さいます。ペテロとヨハネは神の言葉を力強く証しして語り、サマリアの多くの村で福音を告げ知らせエルサレムに帰って誠に主の言葉、喜びの知らせを力強く証しました。福音を告げ知らせると言う事は大切な大切な働きです。

何より大事なものは主のお言葉を聞いてそれに従うことであり、聖霊によって心を吟味していただき、心を正しくしていただくという出発点から私たちは出発させていただき、証しをして語らせていただき、そして喜ばしい福音のメッセージを告げ知らせる私たちを主は豊かに喜び、いつもお用いになられるということを知って感謝いたします。

私たちがキリストによって共に死に、共に復活させていただいたものです。心正しくあるならば24節にありますようにお前はこのことに何の関わりもなければ権利もない、お前の心が神の前に正しくないからだということには決してなりません。神の前に正しくイエス様に深く結合わさされていれば関わりがある権利が、力が出て来て、祈り力強く主の言葉を証して福音を述べ伝え行くものとされます。そしてイエスキリストによって救われる方々が洗礼を受けて聖霊をいただくという、そのことに心正しいものは関わるすることができます。この権利を用いて、関わりを用いて私たち私の言葉を力強く証しをさせて下さい。多くの方々にこの福音を告げ知らせていきたいと心から願います。